

中部国際空港関連土産品のデザイン開発

水野 潤^{*1}、生浦京子^{*1}

Design of Souvenir goods

Jun MIZUNO and Kyouko IKUURA

Tokoname Ceramic Research Center, AITEC^{*1}

2005 年に中部国際空港は開港予定であるが、これを景気低迷する陶磁器業界の販路拡大の好機と捉え、空港を含む常滑地区の来訪者を対象とした土産品の開発を行った。今年度は常滑焼を代表するアイテムである急須の素材や製造技術などをベースに、異素材を活用した新規性の高いデザイン開発を行った。

1. はじめに

陶磁器産業にあっては、長引く不況に加え消費者ニーズの多様化、海外製品の流入などから非常に厳しい状況が続いている。そのため、こうした陶磁器企業の新分野進出を支援する新規性のある商品開発が望まれている。幸いなことに現在常滑市沖に建設中の中部国際空港は2005年2月に開港予定である。空港には国内外への旅行者が集まるのはもちろんであるが、15,000 m²にも及ぶ商業施設も併設され、飛行機利用者だけではなく多くの人が集まる観光スポットになると見込まれている。こうしたことを陶磁器産業発展の好機と捉え、多くの来訪者をターゲットにした魅力ある土産品の開発をめざした。

2. デザイン開発

2.1 研究会の開催

空港の開港まで2年間もないこともあり、迅速な商品開発が必要であったため、地元企業に参加を募り共同で土産品開発を進める研究会を組織した。研究会は概ね毎

月1回のペースで計10回開催し、アイデア、技術的課題等について情報提供や意見の交換を行った。また、土産品には産地企業では発想しにくい新鮮なアイデアも不可欠であるので、工業デザイン並びにファッション分野の商品開発アドバイザー2氏を招き助言をいただいた。研究会の中で議論を重ねながらテーマの設定を行った結果「異素材の活用」と最近注目度の高い「発光ダイオード(LED)」の利用を検討することになり、参加企業をこのいずれかにグループ分けし、アイデアの展開から試作品の製作まで行った。写真1

研究会には多数の企業の参加を得たが、最終的に土産品の試作に至ったのは次の11社である。

朝日製陶株式会社、義粹、有限会社玉光陶園、
光風井本製陶所、有限会社シーム、秋景、甚秋陶苑、
有限会社陶聖陶苑、陶房弘二、山田陶苑、
有限会社義村陶園

2.2 開発コンセプト

2.2.1 伝統技法の再認識

近年、家庭における陶磁器製品は飽和状態に近く、厳しい市場環境が続いたので、メーカーは産地の特色より消費者の指向にあわせた商品づくりをすすめてきた。各産地は大消費地における売れ筋商品情報をたよりに商品企画をした結果、どこの産地も同じテイストを追い求め、似通った製品を提供する傾向があった。加えて市場には海外からの大量生産製品の流入もあって、価格競争を強いられる環境となっている。こうしたことから産地が生き残る一つの方法は、産地の伝統的な技法でつくられた商品、その産地しかできない商品など他産地と競合しない商品を見直し、消費者に提案していくことが必要と考えた。また、従来どおりに量産指向ではなく、伝統技術を活用した手作りを基調に付加価値の高い製品作りを目



写真1 土産品開発研究会

^{*1} 常滑窯業技術センター 応用技術室

指した。

常滑焼では、陶管や焼酎瓶、各種鉢など比較的大きな製品の製造技術もあるが、今回の土産品の開発に際しては朱泥などの素地や、ロクロ、押出、タタラなどの成形方法、加飾では彫り、のた絵、練込、練上、櫛目、飛がんな、藻がけなど急須造りの技法の活用を検討した。

2.2.2 購買層の設定

主なターゲットとして飛行機を足としているビジネスマンを挙げることができる。また海外旅行に関心の高い若い女性、家族旅行や学校の校外学習等で空港を訪れる機会のある子供たちも有望な土産品の購入層である。それぞれのターゲット層にあわせたテイストや単価を想定しながら、産地独自の伝統技法に加えて陶磁器以外の異素材の活用をテーマにアイデアの展開を行った。アイデアの中から数十点の試作を行ったが、当センターの企画を当センターで製作したもの、センターの指導の下、研究会メンバー企業が製作したもの、研究会メンバー独自のアイデア・製作によるもの3つのパターンがある。

2.3 デザインと試作

2.3.1 ビジネスツールセット

これは空港利用頻度の高いビジネスマン向けにデザインした。ビジネスツールセット内容は、写真2に示すように万年筆、デスクボールペン、光学式マウス、ポケットナイフの4点である。いずれも実用性を訴えるものではなく、持つことの楽しさを意識させる趣味性の高いアイテムとなっている。特に万年筆は近年コレクターズアイテムにもなっており、手作り的高級品が注目を浴びている。無釉である朱泥の筆記具は適度な重量感があり、しっとりした感触は好評で使うほどに艶が出て愛着が増す。装飾は主に急須の伝統技法を用いた。一つは文字彫りである。これは微細な文字を印刀で手彫りする技術であり、一般には般若心経などが多く彫られている。手彫りであることを生かして、名入れやメッセージなど自由



写真2 ビジネスマンツールセット

に入れることができる。また、着色した泥しろうで絵柄を描くのた絵を施した。軸に文字彫りとのた絵を施した装飾例が写真3である。今回は外国人を意識し、日本情緒溢れる装飾としたが、日本人を対象とした場合は洋風でモダンな絵柄も必要になってくる。なお、文字彫りとのた絵はとこなめ焼の伝統工芸士村田幸夫（幸山）氏に依頼した。

2.3.2 やきものの鉛筆

かつて、鉛などの金属棒を筆記具として使用していた時代があり、その名残で鉛筆と名がついた。その後、鉛よりさらに黒く書ける材料が見つかり、黒鉛と名付けられたが、初期の鉛筆はその棒状の黒鉛(石墨)を木で挟んで使用していたという。次第に良質な石墨資源は減少し、粉末黒鉛と粘土を混ぜ、焼き固めて芯を作る方法がフランス人のコンテによって編み出された。このことから鉛筆の芯はやきものの仲間と言える。今回、校外学習などで空港を訪れる小学生を対象に、手軽に購入でき、また話題性、新規性の高い土産品として、写真4に示すようなやきものの鉛筆を作った。坏土を丸棒状に押出成形し、ナイフで削れる程度に低火度で焼成した。子供向け商品でもあり、土でできた鉛筆であること「つくし鉛筆」とした。今回のように押出成形ではなく圧力鑄込で成形すれば実際につくしの形をした鉛筆や写真5に示すようなかわいらしいマスコット付タイプ、色芯を用いれば色鉛筆、刻印による名入れなど幅広いバリエーション展開が可能である。

2.3.3 印鑑スタンド

印鑑スタンドには朱肉と印鑑をセットで収納できるもので、通常は一輪挿しとしか見えないタイプや上から差し込んである印が直接印肉の上に接しており、取り出すだけで押印できる新案のタイプなどを製作した。写真6に示す印鑑スタンドは当センターで企画し、デザインアレンジ、製作はa 甚秋、b 陶房弘二、c・d 秋景、e 山田



写真3 文字彫り、のた絵による加飾

陶苑が行った。

2.3.4 電気蚊取器「まいった蚊」

電気式の蚊取器は広く一般で使用されているが、ポデーが樹脂製で設置場所によっては雰囲気と合わないことがある。「まいった蚊」は市販の電気式蚊取器を中に入れて使用する焼き物のカバーである。特に和風の雰囲気を重視する飲食店などに最適である。写真7に示すように企画は当センターで行い、デザインのアレンジ、製作はf 光風井本製陶所、g (有)玉光、h は山田陶苑が行った。

2.3.4 女性向けの土産品

写真8は女性を購買層に想定した土産品である。i は山田陶苑製作の猫の形状の卓上ミラー、j は当センターと(有)義村陶園製作のミニ手鏡、k は義村製作の練り込み技術をつかったペンダント、l は当センター製作の練り込みのボタンである。

2.3.5 暮らしのコンフォート

暮らしを快適にする土産品アイテムが写真9である。mは子供向けで空港島を形どった浮くやきもので、管制塔部の発光ダイオードが点滅する。製作は朝日製陶(株)、n は竹箴を活用したアクセサリライト製作は光風井本製陶所、o は茶香炉であるがローソクを使わない電気式である。茶葉を乗せる上部皿の内部に発熱体が埋め込んであり、たとえ使用時に転倒しても皿が本体からはずれ、給電をストップするので安全である。企画、製作共(有)



写真4 やきものの鉛筆



写真5 マスコットの付いた鉛筆

シーム。p は保安灯。通常は常夜灯で、持ち上げるとランタンになり、夜中のトイレなどに便利。企画、製作とも当センターである。

2.3.6 透光性素地を用いたパイロットデザイン

写真10のq~tは透光性素地と発光ダイオードを組み合わせた試作品である。q は置時計で企画、製作共当センター。r は人形置物で企画、製作は(有)玉光陶園。s はウエルカムライト。企画は当センター、製作は朝日製陶(株)。t は火を使わないので安全な灯明。企画、製作共当センター。

3. 結び

今年度は土産品のデザイン開発をテーマに研究会を組織し、多くの試作品による提案を行った。重くて破損の危険性がある陶磁器は土産品として不利な特性もあるが、多くの人に焼き物の良さを知ってもらうため、今後は商品化に向けてリファインしていく必要がある。

付記

平成16年3月21日より3日間、研究会活動の紹介を兼ねた展示会を催した。変則的な日程にもかかわらず、TVや新聞などマスコミにも紹介され、多数の来場者があり、好評であった。

また、やきものの鉛筆は実用新案登録申請を行った。

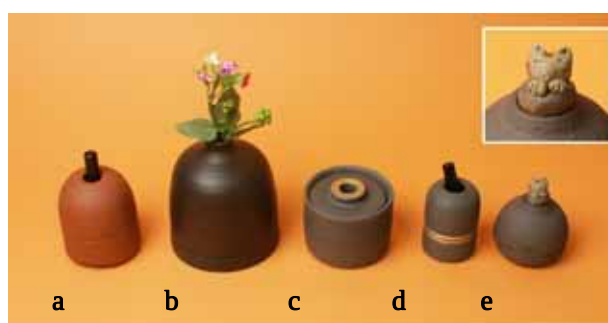


写真6 印鑑スタンド



写真7 電気蚊取器「まいった蚊」



写真8 女性向けアイテム

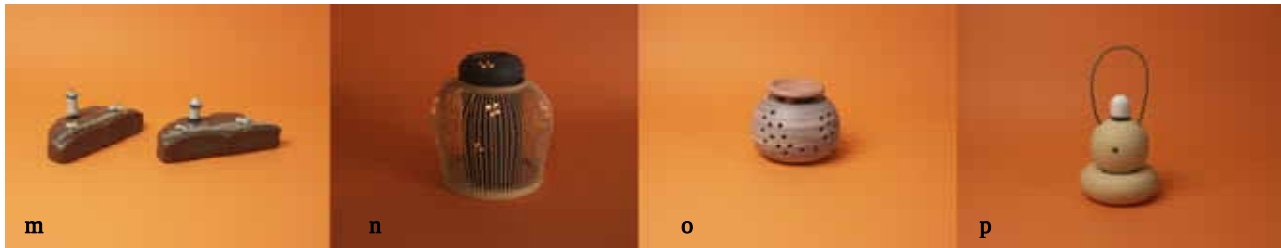


写真9 暮らしのコンフォートアイテム

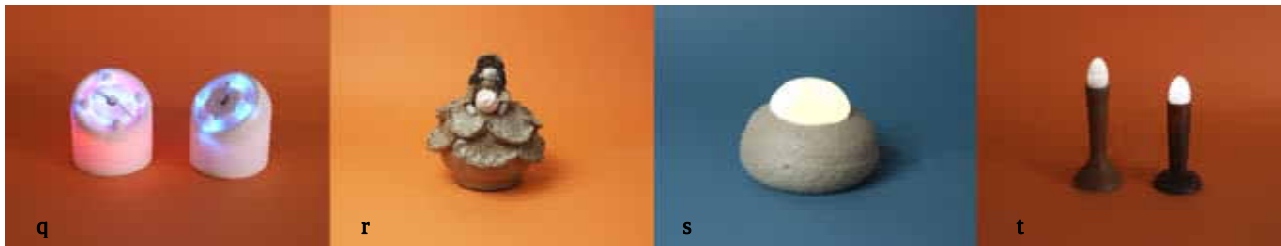


写真10 透光性素地を用いたアイテム



写真11 発表展示会「はばたけ！とこなめ焼」



写真12 ポスター